

出張報告書(海外用)

1/6頁

所属 (大学・短大)	京都文教大学	所属 (学科・部署)	こども教育学部	作成日	2024年8月2日
職 名	教授	出張者氏名	陸 君	印	
日 時	2024年7月14日 (日) 12時00分 ~ 2024年7月22日 (月) 21時00分 うち機中泊 7/14.7/21 - 泊				
行 先	スペイン・マドリード経由でビルバオ会場				
目的・内容	The Hemingway Society: 20th Biennial International Hemingway Conference 「第20回隔年ヘミングウェイ国際学会」の参加と口頭発表				
主催学会団体等	米国ヘミングウェイ学会				
研究・調査発表等概要	7月14日～22日まで、日本・米国両ヘミングウェイ協会の会員として、スペインで開かれた「第20回隔年ヘミングウェイ国際学会」に参加と口頭発表をして来ました。20日(土)12時から英語による口頭発表概要は以下です: From February 20 to May 6.1941, Hemingway and his third wife Martha Gellhorn went to China just after their marriage. His special trip to China has been long ignored since it was believed that he didn't leave any stories or novels about this Asian experience. But since late 1980s, Hemingway's experience away from America has become a rising topic, Hemingway in Spain, Hemingway in Cuba, and Hemingway in Paris, especially, Hemingway in China (published in 1990 and 2006), Hemingway's China trip has aroused great sensation among Hemingway society. This presentation tends to demonstrate 1) How did Hemingway spend his three months in China; 2) His first one month in Hong Kong; 3) What did he write about this China Trip by checking 6 dispatches to PM magazine and 8 page description of HongKong and Shanghai in his posthumous Novel "Islands in the Stream". 口頭発表日本語概要: 1941年2月から5月まで、米国作家ヘミングウェイがPM紙の要請を受け、戦時中の中国前線で日中戦争状況について、1ヶ月香港、2ヶ月中国南部前線へ取材に行きました。米国著名小説家としてのヘミングウェイと記者出身のヘミングウェイ両方の身分で、3回目の新婚後ジャーナリストの妻マーサさんと一緒に中国で重要人物として歓迎され、現地戦時中困難な生活環境の対応やいろんな取材活動、また帰国後新聞社に送った7つの報告書と死後出版された小説「海流中の島々」中に書いた8ページの中国ストーリーについてが、今回の発表内容にした。				
研究・調査発表等概要	スペインに到着後、一日目は口頭発表準備のため、ホテルで発表内容の修正や確認を行った。二日目は米国ノーベル文学賞受賞作家・ヘミングウェイが愛した、小説によく書かれたスペインのマドリード町、当時よく泊まったホテル、食事されたお店など巡って、現地調査しました。その次の三日間、18日～20日までは学会第二の会議場ビルバオのホテルに滞在し、学会の参加と口頭発表を行った。今回の調査・発表の成果概要は以下の2点である: ①ヘミングウェイが書かれた小説「誰のために鐘がなる」(For Whom the Bell Tolls, 1941); 「太陽はまだ昇る」The Sun Also Rises, 1929)などに書かれたスペインの場所を確認が出来て、これからの研究発表につながると予定しています。②口頭発表は会議場の皆さまに拍手され、質問も3人の発表ブースに一番多く受けました。発表中に見せた1941年2月～3月までヘミングウェイが泊まった香港のホテル(The Repulse Bay Hotel)の当時と現在の写真が、本人の現地調査により初発見だし、まだ業界では未発表されたものなので、会場の研究者らに評価された。12月の日本ヘミングウェイ協会のワークショップで、すでに予定された口頭発表にも取り入れて、最終的には学会誌に投稿する予定にしています。				

研究調査活動経過報告書（海外用）

2/6頁

[illegible]

出張報告書(海外用)

3/6頁

○本出張によって得られた研究成果を下記①～⑤で発表の予定があれば該当するものを記入してください。

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）、
- ②図書（著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）、
- ④授業での活用、
- ⑤その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

研究 成 果 記 入	①	日本ヘミングウェイ協会誌に投稿する
	②	12月に予定されている日本ヘミングウェイ協会ワークショップ発表に今回の口頭発表内容を取り入れる。
	③	
	④	
	⑤	

○該当するものを以下に記載し、添付資料としてご提出願います。【必須】

	発表の方	調査の方	セミナー参加者
記入例	プログラム、抄録、原稿、PPTスライド等の写し 記録写真	収集資料写し、調査状況関連の資料等の写し、記録写真	配布資料写し、講義記録写し、記録写真

添 付 書 類 記 入 【 必 須 】	①	口頭発表PPT原稿
	②	学会参加と発表記録写真
	③	マドリードに残されたヘミングウェイの小説に出てきたお店やホテルの記録写真
	④	次ページからの写真資料等はWebページでの公開を省略させていただきます
	⑤	

※意見等欄は記入不要です。

※意見等	1	印
	2	印
	3	印